総　　評

全体的な保育士の自己評価と園としての自己評価を総合して、全体的にみれば、「ほぼできている」という評価になった。また、長期に渡る病気の保育士もなく比較的安定した保育を行えたのではないかと評価した。「子ども達の安全に配慮し。肯定的な対応。あいさつ・感謝の言葉を重視した保育」を一年を通して行えた。

しかし、園・保育士ともに現状に満足しているわけではなく、反省・改善点を感じており、各自が目標・課題を持って保育を行っている。
ただその中で、経験の浅い職員や自信が持ちきれない職員は、保育士としての自己評価が低くなる傾向があった。

確かに中堅以上の保育士に比べたら経験が少ない事は否めないが、自信ある保育士であるために、「自分の熱意を信じる。そして自分の心に正直にいる事・慢心せずに今の自分を認めてあげること・見直すこと・感謝すること。そしてその想いを子ども達や園に関わる人たちに発信する。」そうすれば自ずと自信も生まれ、必要とされる人材でいられるのではないかと考える。全ての保育士が自己肯定感を感じられるようにすることが良い園になっていく為には不可欠だと感じているので、職員間の支えあい。協力する。そして少しの失敗を恐れず仕事に臨める様に園として環境を整える事が必要である。

アレルギーの対応について、申請の書類や対応の問いに、自信が持てない職員がいたが、基本的に申請は園長と主任が対応するため保育士は、その場に立ち会ったことが無い事ので、評価を下げてしまったのではないかと考える。アレルギー児の保護者との対応についても基本的に担任が行う為、アレルギー児のいないクラスの職員は普段やりとりをしていないので慣れていない。その分、万が一対応する場合があった時、不安に感じるようだ。なので、園として情報の共有密にし、職員の不安が少なくするよう努める。

保護者の方々には説明が足りない部分であったり、不手際がありご迷惑をお掛けしてしまうことがある。ご指摘を受けた事に対して可能な限り対応・お答えし、ご理解いただけるように努める。

引き続き、子ども達はもちろんの事、園に関わる全ての方々の為に、より良い対応や体制がとれる様、向上心・誠意をもって園の運営を行っていく。